

第5回鎌倉検定 1級ガイドンス サマリー (要旨)

鎌倉観光文化検定 1級ガイドンス

講師 原田 寛 氏

1. ガイドンスの趣旨

このガイドンスは、2・3級が全問4択であるのに対し、記述問題など出題形式に異なる部分があるため、事前に出題方式などを説明するために設定したもので、対策講座ではありません。

従って、ガイドンスを聞かなくても、過去の問題を商工会議所のHPで見ただけであれば、おおよその想像はしていただけると思われます（もちろん毎年改善努力をしていますので、まったく同じ設問方式というわけではないと思われます）が、定員の関係等で本ガイドンスにご参加いただけなかった方のために、ガイドンスのサマリーを鎌倉検定ホームページにも掲載致します。

2. 試験の全体像

1級は鎌倉に関する正確で詳しい知識を求める試験ですが、入試問題のように振り落とすことを主眼としていませんので、過度にマニアックな出題はできるだけ避けるようにしているようです。

出題は全60問の予定で、このうち4択問題が約1/3（20問程度）で、残りの2/3（40問程度）が記述式の問題になると予想されます。平均的な1級受験者でも、解答に50分近い時間が想定され、全問を見直す時間はほとんど無いと思われますから、ケアレスミスしないように慎重に解答してください。また、思い出せない項目に過度に時間を費やさず次に進むなどの見極めがきわめて大切になります。

副読本（『読んで分かる中世鎌倉年表』）からも出題されることになっていきますので、どの程度出題されるのか心配されている人もいらっしゃると思われます。さまざまな出題方式の中に部分的に紛れ込んでいることがありますので、厳密に何問とは言いきれないのですが、おおむね60問中の約1割、5～6問程度に関係してくると思われます。

1級の検定も今年で3回目になりますから、類似問題が出題される確率が高くなってきています。入口と出口が逆になっていたりすると思われますが、

過去問題は必ず確認しておいてください。

3. 4 択問題

2・3級の設問のように単純に正誤を問う問題だけでなく、多くの問題に若干の工夫が施されています。

例えば合戦とそれに関わる人物、和歌と作者、作家名と関係する寺社名、墓と寺院、十井や五名水と寺院名、建築物と人物、ハイキングコースとその沿線の物件などの組み合わせの正誤を問う問題が出る可能性があります。また、特定の事柄や場所、人物などについて記述された文章がいくつかある中で、「以下の源頼朝について書かれた文章のうち、誤っているもの（あるいは正しいもの）が幾つあるか」を選択肢で選ばせる問題も想定しておいてください。さらに、何人かの人物やいくつかの場所などを並べて、正しい順番はどれかといった問題も想定されます。執権の順番や主要な寺院の主要な住職、寺院の創建年、合戦の年代などの年代順を問う類です。

いずれにしても、2・3級のように消去法で正解を導くのは難しいので、やはり正確で詳しい知識を求められることとなります。また、写真を見て答える問題が毎年出題されていますので、理想的には鎌倉を実地に歩くことをお勧めしますが、最低限テキスト掲載の写真については、入念にチェックしておきましょう。以下の写真のうち円覚寺の山門はどれかといった類いです。いままで出ていないところでは海の写真というの也被考えられます。

「○○○について述べた以下の文章のうち正しい（誤った）ものはいくつあるか」といった問題を想定して、四択にしやすい項目（2～3しか重要点があれば四択にしづらい）は読みこんでおく必要があります。

4. 記述式問題

まず最初に記述のルールが明示されていますから、必ず確認するようにしてください。

あくまでも記述式の問題であって、「○○○について述べよ」という論述式の問題は出題されないでしょう。具体的には、ある文書の中に何ヶ所かの虫食いがあり、そのカッコ内を埋める形式がこれまでの傾向です。虫食い2ヶ所の両方を正解して2点の配点になっている問題がありますので、この場合は片方だけ正解しても得点できません。

また、設問によっては漢字で記入せよと指示されていますが、この場合は

テキストに記載されている漢字を記入しないと得点になりませんから注意してください。鎌倉に関係の深い人物名や書名、地名などの固有名詞を答えさせる場合に、漢字で記入せよという指示が入っています。あまりに常識的なものを除いて、一般名詞は漢字でも平仮名、カタカナでも構わない設問になっています。

そこで、“佛”日庵、“壽”福寺、“圓應”寺などのように、テキストの表記が旧漢字になっている名称をチェックしておくのは当然ですが、ほかにも“太”平記、“大”平山のように、まぎらわしい文字を明確にしておく必要があります。また、虫食いの箇所が（ ）“寺”になっているところに“建長寺”のように記入してしまうと、結果として建長寺“寺”のように“寺”の字が重複してしまいますから注意してください。その他では船”おろし“と船”祝い“、“潮”神楽と“汐”まつりなど、まぎらわしい名称を正確に書き分けられるようにしておきましょう。

ルビ（ふりがな）振り問題については、石清水八幡宮（いわしみずはちまんぐう）、光触寺（こうそくじ）、九品寺（くほんじ）、十二所（じゅうにそ）、葛原岡神社（くずはらおかじんじゃ）、大巧寺（だいぎょうじ）、散在ヶ池（さんざがいけ）、底脱ノ井（そこぬけのい）、鉄ノ井（くろがねのい）、手斧始式（ちょうなはじめしき）、草鹿（くさじし）のように、難読単語や誤読しそうな単語をチェックしておいてください。ルビ振り問題では人名は諸説あるため出る確率は低いと思われ、今までも三浦大介義明（みうらおおすけよしあき）以外に出題されたことはありません。

5. 効果的対処法

有名寺社（鶴岡八幡宮、建長寺、円覚寺、高德院、長谷寺、光明寺、瑞泉寺、東慶寺、覚園寺、壽福寺など）については、キーワードを関連づけて整理しておく効果的だと思われまます。

建長寺を例にすると、日本初の禅専修道場、鎌倉五山一位。開山は蘭溪道隆（大覚禅師／日本初の禅師号）、開基は第五代執権北条時頼（鉢の木伝説）、梵鐘は国宝で物部重光作、地獄谷（心平地蔵）、法語規則（国宝）、ビヤクシン（開山お手植え）、葛西善蔵『おせい』、半僧坊（烏天狗）などがつながっていれば解答のヒントになると思われまます。

また、主要な歴史上の人物（源氏三代、主要な執権、名僧など）についても、同様の勉強法をおすすめいたします。どちらの例も、歴史、寺社、文化

財、文学など複数の章にまたがっている項目があるため、このように整理しておくことが効果的です。

さらに、出題者が実際に問題を作成するときのことを考えると、別称のある寺（竜巻寺、アジサイ寺、ツツジ寺、ハギ寺、おんめさまなど）や別称のある仏像（類焼阿弥陀、身代わり地蔵、矢拾地蔵など）、伝説が残されているものなどは設問を作りやすいので要チェックと思われます。

植物に関連した設問では、各植物を代表する寺社（たいていは各項目の最初の方に記述されています）や、英勝寺のヤマブキのような伝説や史実にまつわる植物、固有名詞のある植物（覚園寺の太郎庵、荏柄天神社の古代青軸、安国論寺の源平モモや妙法桜）も設問を作りやすいため、出題される確率が高い傾向がみられます。その他では、滑川の別称の順番や江ノ電の駅名の順番、ハイキングコースなら起点と終点、沿線の史跡など、文学では書名、作者、舞台などを整理しておくが良いと思われます。

テキスト外の予想をたてることはかなり困難ですが、今までの例では鎌倉市のホームページ、『鎌倉こども風土記』からの出題と、時事問題があります。景観重要建築物等に新たに指定された極楽洞、国指定史跡の釈迦堂口などが要チェックです。

最後に、かなり時間が制約された中での検定になりますが、過去にもひっかけ問題が出されている例があります。選択肢文中の妻と母や関東十刹と関東十八檀林のように、取り違えやすい名称にはとくに注意をしてください。

6. 質疑応答の内容

Q1 長勝寺の日蓮像は日蓮聖人像と尊称が表記されているが？

A1 尊称は表記しないのが原則ですが、この例のように固有名詞については例外的に扱っています。

Q2 “しんにゅう”の書き方を略すると誤答になるのか？

A2 漢字検定ではありませんから“トメ”や“ハネ”といったレベルは問われません。

Q3 テキストでは鎌倉大仏の正式名称が阿弥陀如来と阿弥陀如来坐像の不統一があるが？

A3 他にも半僧坊権現か半僧坊大権現かというように、テキストに複数の表記がある場合はどちらも正解として扱われます。

Q4 世界遺産がらみの出題は予想されるのか？

A4 鎌倉は世界遺産登録を目指すまちですから、候補地の寺社、史跡の問題は予想されます。候補地リストを寺院、神社、史跡、道など、ジャンル別に整理しておくことで七口で該当しないのは極楽寺切通だけとか、道で候補になっているのは若宮大路だけというようなことが明確になって効果的です。寺院や史跡の問題文中に世界遺産候補の記述があるケースでも解答のヒントになりますが、「以下の中で世界遺産候補(候補でないもの)はどれか」のような設問が可能だからです。

以上